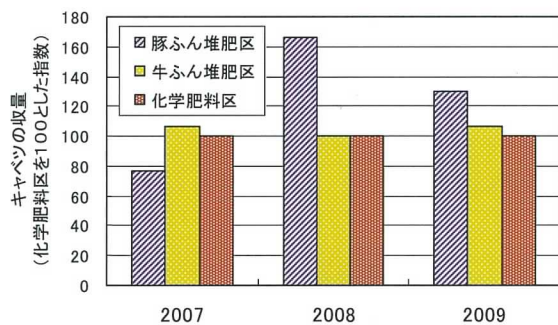


研究トピックス

堆肥連用ほ場の施肥は 窒素だけでOK

堆肥を連用すると土壌中には可給態リン酸、交換性カリが蓄積します。牛ふん堆肥3t/10aまたは豚ふん堆肥2t/10aを5年連用した畑で、リン酸肥料、カリ肥料を施用せず窒素肥料だけでスイートコーン(夏作)、年内穫りキャベツ(冬作)を3年間栽培したところ、慣行の化学肥料区と概ね同等の収量が得られました。(環境基盤研究部)



化学肥料区(慣行): 県施肥基準に従って窒素、リン酸、カリを施用
豚または牛ふん堆肥区: 堆肥+窒素肥料を施用

県内にミナミアオカメムシが拡大

2008年、愛知県で初めてミナミアオカメムシが確認され、ダイズで被害が発生しました。本種はダイズの子実害虫として、イネでは斑点米カメムシとして問題となっている害虫です。生息調査を行った結果、確認された地域は、2008年10月には7市町でしたが、2009年12月には30市町村と生息域が拡大していることがわかりました。今後は、被害防止のために防除適期や農薬の種類などの防除法の確立を進めます。(環境基盤研究部)



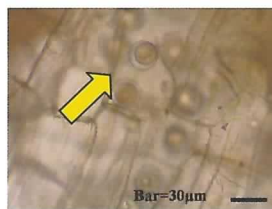
ミナミアオカメムシの成虫(左)と幼虫(右)

ウツギ立枯病の 病原を明らかにしました

2008年夏、挿し木をしたウツギ(園芸品種)がしおれて落葉し、根が腐敗して枯死する症状を愛知県内の鉢物生産農家で確認しました。研究の結果、土壌病原菌であるピシウム・ミリオタイラム(*Pythium myriotylum*)による病害であることがわかり、ウツギ立枯病と命名しました。この病害は夏季高温時に発生が多く、また、土壌水分が多いほど被害が大きくなります。(環境基盤研究部)



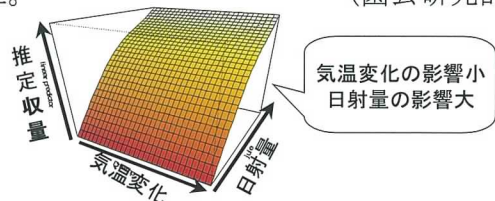
ウツギ立枯病の症状
(萎凋落葉し、根が腐敗)



被害株の根の組織内に
形成された卵胞子
(球状のもの)

データマイニングによる トマトの短期収量予測法の開発

トマトの栽培管理を的確に行うために、データマイニングの手法を用いた収量予測を試みました。栽培時に得られる種々のデータを解析したところ、過去4週間の気温、日射量、灌水量の値から2週間後の収穫量を精度よく推定できました。10~2月は日射量、3~6月は灌水量が大きく影響することもわかりました。(園芸研究部)



トマト収量に影響する要因(10~2月)

編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線323(企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>